

# 手工芸の趣味を生かして、 地域でのサロン活動を積極的に展開。

やしろ ゆきこ  
屋代 幸子さん 埼玉県 82歳



40年培ってきた技術を  
社会に役立てたいとい  
う思い。

40年ほど前から、高齢にな  
っても続けられる趣味として  
木目込み人形作りを習い、教  
授資格を持つほどになった屋  
代幸子さん。

その技術を買われて、町内  
の老人福祉センター事業の手  
工芸の講師を務めていたので  
すが、ある時、受講生から「習  
った事を、何かに生かせないか」  
との言葉を受けました。

若い頃から始めた手工芸の  
技術を通して、何か社会貢献

ができないものかという思い  
を持っていた屋代さんにとっ  
て、それは我が意を得たりと  
いう思いでした。

平成14年、手工芸サークル  
を立ち上げて活動を開始し  
ました。

サークルからサロンへ。  
さらに地域活動の幅を  
広げて。

サークルの活動は月2回。  
もともと社会と関わる意識  
を強く持っていたメンバーな  
ので、趣味の活動にとどまら  
ず、町内の身体障害者施設へ  
食事用エプロンやお手玉、牛  
乳パックを再利用した椅子  
などを作って贈呈、地域と関  
わる活動を積極的に行ってい  
ます。

平成18年からは、サロン活  
動の重要性を感じ、さらに  
地域での活動を活発化する  
ために、既存のサークル活動  
と共に新たなサロン活動を

展開し、活動の幅を広げてい  
ます。

培った経験をベースに  
幅広く地域に貢献して  
いく。

現在、屋代さんを中心とし  
て、月2回、2時間程度の活  
動を行っています。立ち上げ  
当初より行っている福祉施設  
への手作り品の寄付は、現在  
も継続していますが、それだ  
けでなく、メンバー間の支え  
合いや教養を高めるため町  
の出前講座なども依頼してい  
ます。

また、平成24年には、社会  
福祉協議会がふれあいセンタ  
ーかがやきに「かがやきサロ  
ン」を立ち上げる際、屋代さ  
んが尽力し、サロン活動の主  
体となるボランティアグルー  
プのリーダーとしてグループ  
の取りまとめを行いました。  
手工芸をベースとしながら  
も、その枠にとどまることな

く、自身の培った経験を生か  
して地域活動でリーダーシッ  
プを発揮する屋代さん。

「出来るものは、継続してい  
きたいと考えています。一概に  
高齢者といっても、一回り以上  
年齢が離れている方もいらっ  
しゃるので、「コミュニケーション  
をとってお互いが支え合っ  
て、住み慣れた地域で、みんな  
が暮らしていけるようにして  
いきたいです」と、今後の抱負  
を語っています。

